

2016(平成 28)年度事業報告書

当協会は 1992 年の設立以来、遠赤外域の放射伝熱を利用した遠赤外線関連産業の振興及び遠赤外線製品の認定事業などを通じた消費者保護活動を推進し、2012 年の一般社団法人への移行後も活動を継続してまいりました。昨年度より協会のキーワードを一新し「無限の広がり 遠赤外線 未来への可能性」を掲げ、一般社団法人として協会活動が遠赤外線応用製品をご使用するお客様や会員企業のメリットに繋がる様、活動の見直しを行ない新たな取組みがスタートいたしました。

新たな視点で事業活動を見直すため、会員の皆様や各運営機関にアンケートを実施し、皆様の要望や意見を反映させるべく関係委員会で内容を検討し主な取組みを 2 つに決めました。1 つ目は、これまで蓄積された「技術情報データベース」を一定の範囲で公開する取組みです。2 つ目は、自主認定（認定マーク）を今まで以上に会員やお客様に認知いただける見直しを進めています。それ以外にも、各種問い合わせ対応や認知度アップ施策、外部企業・団体との意見交換など、協会会員のご支援、ご協力のもと進めてまいりました。

1. 遠赤外線関連製品・技術に関する調査及び研究（定款第 4 条第 1 号関係）

1) 協会保有の遠赤外線関連技術の系統化とその利活用

当協会が設立以来実施してきた遠赤外線に関する各種調査研究などで蓄えられてきた技術蓄積のデータベースやこれまでの 27 回に渡る遠赤外線技術シンポジウム講演目次、平成 2 年創刊号から平成 29 年第 1 号までの会報目次を増補し系統化の充実化を図りました。

加熱・保温繊維小委員会合同で推進してきた遠赤外線関連技術のデータベース化は、平成 27 年度までに「大学に委託した研究報告書、各関係機関からの受託調査報告書、その他委託研究報告書等」をまとめ全体が俯瞰でき検索可能な形式に完成させました。昨年度より、このデータベースの活用について同小委員会合同で検討しました。今年度は、このデータベースから関連企業に利用価値があり知名度アップや会員勧誘ツールとなる技術や事例を抽出し、判り易い形で一部を公開する検討を実施しました。次年度にホームページ等の公開を目指し進めてまいりました。

2) 常温域放射機構及び遠赤外加熱・乾燥に関する調査研究

「遠赤外線による快適な暖かさ」にスポットを当てた遠赤外線の作用効果解明シリーズ「暖かさを科学する」の 4 年目を迎え、今年度は、第 27 回遠赤外線技術シンポジウムで、工学院大学の野部教授にオフィスビルや住環境の快適性と最新の評価ファクターなどに関し「空調のヒューマンファクター」とうテーマで講演いただきました。

会員要望が根強く未だ認定基準化されてない常温域放射分野の寝具系や接触型電気暖房系の分光放射率・温熱効果の測定法や理論の検討がスタートしました。加熱・保温繊維小委員会合同で審議の結果、過去に中断した経過も踏まえ有識者や測定機関、関連企

業の方々にお集まりいただき、第1回ブレーンストーミング会合を開催しました。

加熱・乾燥・暖房分野では、省エネ設備への関心から会員以外の企業から技術や設備導入に関する問合せや相談が増えています。過去の、技術情報データベースの一部公開に合わせ関連技術の見直し調査を進めてまいりました。

2. 遠赤外線関連製品・技術に関する情報の収集及び提供（定款第4条第2号関係）

1) 基盤的情報の収集及び提供

2016（平成28）年度定時総会講演会には、横浜国立大学 教育人間科学部 教授であります薩本弥生氏を迎え、「快適被服を科学する」と題して講演をいただきました。

また、今年度も会員への発信手段である「年3回の会報」を活用し、遠赤外線関連製品・技術に関する文献、特許、新聞などから情報を収集し、会員の皆様に提供するとともにデータベースとして構築しました。

昨年度実施いたしました「遠赤外線市場調査」は、今年度から「産業クリッピング」に統合しました。新技術・政府の関連政策・国内外の企業活動に加えてネット情報をメインにした新製品情報を調査し、タームリーに会報を通じて情報提供いたしました。

一般の方々を対象にした「遠赤外線とは」、「遠赤外線製品の効用」など遠赤外線の正しい知識は公開しているものの、直接的な普及促進は活動が出来ませんでした。今後、遠赤外線関連技術データベースの一部公開に合せ、協会知名度アップと会員勧誘活動が、結果として関連製品の知名度アップや普及促進に繋がるよう取組みを進めます。

2) 世界省エネルギー等ビジネス推進協議会（JASE-W）

国際展開技術集 2017年版の作成を通して、遠赤外線応用製品・システムの特長や効用を世界に紹介するとともに、定期的に開催される総務委員会に出席し、関連情報を加熱・保温繊維小委員会の場合や会員の皆様にお知らせしました。2016年度「JASE-W ニュース」「省エネルギーセンターからのお知らせ」は計5件を配信しました。

国際展開技術集 2017年版は「遠赤外線暖房」、「遠赤外線乾燥」、「遠赤外線による食品加工」、「遠赤外線暖房機器」、「放射空調システム」の5テーマを提供しました。日本語版、英語版は2017年2月初旬に同協議会のホームページに公開されました。更に中国語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、ベトナム語は今期末を目処に作成中です。この国際展開技術集は、同協議会が出席する海外の展示会や来日の政府要人、大使館・領事館や各省庁、関係各機関などに配布され、日本の優れた省エネ技術を広く世界に紹介するのに利用されます。

3) 「会報」の編集、発行

遠赤外線製品に関する関連業界情報、特許情報、大学や研究機関などから発表される遠赤外線関連論文を定期的に掲載するとともに、講演要旨では「総会講演会の講演原稿」、

技術報告では「技術シンポジウムでの講演原稿（抜粋）」を掲載しました。また、会員紹介など会員相互の情報交換に有益な情報や協会の活動内容や政府の諸政策（予算や公募・税制や規制緩和など）、内外の産業動向の概要などを掲載しました。会報発行は、今年度も年3回（1、6、11月）の発行を行ないました。編集作業・発行は事務局で行い協会ホームページの会員専用ページに全内容をフルカラー版で掲載しました。

4) 遠赤外線に関する各種相談

一般の方々や非会員の遠赤外線関連会社から協会ホームページを通じて寄せられる遠赤外線技術に関する質問について、会員メリットを損なわないように情報管理を行いながら、中小企業対策、遠赤外線関連産業の育成、一般の方の遠赤外線の正しい知識啓蒙の一環として実施しました。一般の方々、遠赤外線関連業者からの問合せ件数は、2016（平成28）年度は98件（3/31現在）（2011年度115件、2012年度139件、2013年度113件、2014年度143件、2015年度130件）あり、すべてに回答しました。

5) 経済産業省関連情報等の会員への配信

経済産業省の省内組織変更（7月実施）によって、経済産業省と関連団体との定例会議が一時中断したため、協会会長による素材産業課（協会所管）茂木課長への訪問や松谷課長補佐の運営委員会への参加、11月技術シンポジウムでは経済産業省の後援を受けて革新素材室長の井上室長に講演をいただくなど、協会単独の交流がスタートしました。また、省エネルギーセンターやJASE-W総務委員会からの情報、ホームページや新聞、ネット記事から協会関連情報を収集し、速やかに会員に情報共有を実施しました。

上記2)のJASE-W関連の情報も合わせて、2016（平成28）年度は34件（3/31現在）（2011年度42件、平成23年度31件、平成24年度31件、平成25年度28件、2014年度28件、2015年度18件）を発信しました。

6) 遠赤外線関連施設見学会の実施

遠赤外線関連事業の現場を訪問し、遠赤外線技術の奥深さと利用領域の広さを体験する場として、遠赤外線関連施設見学会を2010（平成22）年度から6回ほど実施しました。2014年度のアンケート要望を踏まえ今年度は、参加者の利便性を考慮し、加熱・保温繊維小委員会合同、運営委員会と同じ日に協会に近い浜松町にある「東京ガス本社ビルの防災・供給センター」を実施しました（2/9 参加者9名）。

3. 遠赤外線関連製品・技術に関する普及及び啓発（定款第4条第3号関係）

1) 認定マーク・認定基準の普及促進と適用商品の拡大

今年度は、7月に加熱分野の認定審査委員会を開催し電気調理器1件を承認し、累計の承認件数は131件となりました。また、遠赤外線技術の普及のため、11月18日のエレクトロヒートシンポジウム（主催：JEHC）に出展し、協会ブースに会員企業3社のパ

ネルを展示すると共に小冊子を配布するなど、普及啓発・宣伝活動を展開しました。

適用商品の拡大の取組みの一つとして、会員アンケート結果や会員要望から、未だ認定基準化されてない常温域放射分野の「寝装・寝具類」や「接触型の電気暖房器」の分光放射や温熱効果の測定法や理論の検討がスタートしました。加熱・保温繊維小委員会合同で審議の結果、過去に中断した経過も踏まえ、常温域放射機構の有識者や寝具・接触電気暖房の企の方々にお集まりいただき、1月23日に第1回ブレーンストーミング会合を開催しました。また、機能繊維を開発する企業と最新の放射・蓄熱計測や温熱効果の評価について情報交換を実施すべく日本化学繊維協会を通じて打診を行いました。

2) シンポジウムの開催

第27回遠赤外線技術シンポジウムは「無限の広がり 遠赤外線 未来への可能性」をキーワードに、経済産業省の後援、公益社団法人 日本セラミックス協会、一般社団法人 日本ファインセラミックス協会、一般社団法人 日本エレクトロヒートセンターの協賛を得て、浜松町東京會館（東京都港区 世界貿易センタービル 39階）にて開催しました。今回は、「居住空間の温熱環境や機器・素材の最新技術で、遠赤外線の可能性を探る」のコンセプトのもと、5つの講演と3つの技術発表が行われました。

最初の講演は経済産業省 素材産業課 革新素材室室長の井上悟志様にIoT社会の到来を迎え「第4次産業革命への日本企業の対応 ～新産業構造ビジョンから～」と題しご講演をいただき、次にパナソニックの家電R&Dサポートセンター所長の有馬聡様より「暮らしと社会を支える家電 技術動向と将来展望」と題しご講演をいただきました。午後部は工学院大学教授の野部達夫様より「空調のヒューマンファクター」と題しオフィスビルや住環境の快適化についてご講演をいただき、次に例年タイより来日頂いておりますマヒドン大学のサックダビバニッチ教授には、「Applications of Macca Carbon in Our Daily Lives」と題しマカデミアンナツ由来の遠赤外線放射材を使った衣料やサポーターに関するご講演をいただき、最後は、大阪ガスのエネルギー事業部 技術顧問の久米辰夫様より「電力自由化から見えるこれからの日本のエネルギートレンド」のご講演をいただきました。

また、3つの技術発表を実施しました。アライブン様と共同で今年度の優秀製品・技術賞を受賞した「バイオセラミック MIG3 の睡眠改善効果」について、ブラジル Goen3社から来日したマリオ・ヒラタ様よりご発表をいただき、次に日本ガイシ技術部の近藤良夫様より「波長制御ヒーターシステムの開発」についてご発表をいただき、最後にパナソニックキッチンアプライアンス事業部の酒井伸一様より「認定製品 スチームオーブンレンジ NE-BS1300 の開発」についてご発表をいただきました。

併設の製品・業務展示は、今年も会員各社・関係団体10社の協力により展示と説明会が行われました。2016年度協会優秀製品・技術賞を受賞された遠赤外線敷きパッド MIG3をはじめ、ロングセラーの肌着、ネックレス、電子レンジ、ビルトインコンロ、業務用では工業炉や加熱装置など、多岐にわたる製品やカタログ展示をいただきました。

今年度も熱産業経済新聞とコラボレーションを行い、事前に遠赤外線シンポジウムに内容を紙上公開する前宣伝を行うとともに、当日会場で新聞を配布しました。

3) 遠赤外線技術／認定研修会

今年度の遠赤外線技術研修会は、木村顧問を講師に4月14日を皮切りに「遠赤外線技術研修会（基礎・応用）」を東京（協会事務所）で開催しました。会員会社8名、会員外から2名の参加があり2001（平成13）年10月から始まった累計の受講者数は延べ400名に達しました。また、新たな取組みとして受講希望者の多い地区、企業・団体からの要請を受けスタートした出張による製品認定研修会も含め、2011（平成23）年から保温繊維と加熱調理を対象に10回開催され伸べ76名の参加をいただきました。

今年度の「第10回講演・製品認定研修会」はパナソニック(株)アプライアンス社神戸事業場において横浜国立大学名誉教授の渋川祥子先生をお招きし加熱調理に関する講演との2部構成で認定制度・加熱認定基準の研修会を実施しました（12/15 参加者40名）。

4) マスコミに対する協力及び小冊子の配布

熱産業経済新聞、寝具新聞の2紙に、第24回定時総会で採択された事業概要などが6月／9月、第27回遠赤外線技術シンポジウムの概要が11月、佐藤会長の年頭所感が2017（平成29）年1月に掲載されました。日刊工業新聞には、11月に第27回遠赤外線技術シンポジウム開催概要が掲載されました。

また、日本流通産業新聞に定時総会でアライブン(株)が優秀製品・技術賞を受賞された記事が6月、第27回遠赤外線技術シンポジウムの技術発表が11月に掲載され、定時総会でアライブン(株)が優秀製品・技術賞を受賞は、ネットワークビジネス8月号（業界雑誌）に掲載されました。このほか今年度は、以下の新聞、テレビ制作会社などから依頼を受け、内容解説、記事執筆などの活動を行いました。

- ・熱産業経済新聞（10月25日）：遠赤外線暖房装置/可搬型ヒータ特集号へ寄稿
- ・テレビ朝日系列の制作会社：番組で「紀州備長炭」特集での遠赤外線効果説明

また、当協会を訪問された方々や協会が関係団体を訪問した際に、当協会の主な活動と遠赤外線に関する基本情報が掲載されている小冊子を配布し、啓蒙活動を進めました。

5) 展示会

今年度は、11月18日大田区産業プラザで開催されました第11回エレクトロヒートシンポジウムに協賛しました。エレクトロヒートセンター様よりお誘いを頂き、協会としてブース出展しました。当協会もブースを設け遠赤外線協会の紹介と会員3社（ノリタケカンパニーリミテッド、TPR 熱学、パナソニック）にパネル・展示品を出展いただきました。来場には講演会参加者を含めると約1,000人の来場があり、当協会ブースでは当協会の会長が自ら参加され、ブース来訪の多くの業界関係への対応を頂きました。電力会社や電気機器や部品企業など約45社の方々と名刺交換を行なうことが出来ました。

今後、関係委員会とも相談し、ビジネスマッチングや会員勧誘に活用します。

その他、今年度の協賛依頼があり協賛をしました。

・日本工業炉協会サーモテック 2017 (2017.7.21～)

6) 協会文書のデジタルアーカイブの活用

赤外線関連技術のデータベース化は、2015(平成27)年度までに「大学に委託した研究報告書、各関係機関からの受託調査報告書、その他委託研究報告書等」をまとめ全体が俯瞰でき検索可能な形式に完成させました。平成28年度からは本データベースの活用について加熱・保温繊維小委員会合同で検討いたしました。今年度から本データベースが関連企業にとって利用や興味ありそうなデータを抽出した上で判り易く一定の範囲を公開する取組みをスタートしました。協会活動の中で作成、編集された文書、パンフレットなどの著作物を重要度に応じ、サーバー上に保管し協会文書のアーカイブ化を推進しました。

7) 会員拡大活動と協会会員マークの浸透

遠赤外線関連産業の振興には、遠赤外線を扱う企業を協会会員として取り込み、ともに活動していくことが重要であります。遠赤外線技術研修会や遠赤外線技術シンポジウムに会員外で参加した方、関連団体のイベントや懇親会での来訪者や出展され名刺交換した企業の方、更にホームページに質問や相談(ビジネスマッチングなど)のあった企業などに入会案内を送付し、会員入会活動を行ないました。

協会会員マークを「遠赤外線技術シンポジウム予稿集の製品展示企業のページ」や「外部のシンポジウムでは協会ブースの企業展示パネル」の社名の脇に掲載し、遠赤外線協会としての一体感を表現しました。また、会員各人の名刺やパンフレットへ協会会員マークを掲載することを依頼し、掲載件数の増加に努めました。

8) 一般の方々への情報公開・ホームページの充実

一般の方々に向けて、事業報告書、決算報告書(貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録)、事業計画書、収支予算書など所定の最新情報に改定しました。会員情報や当該年度の遠赤外線製品・技術振興表彰の内容、刊行物紹介として協会が発行した書籍類のタイトルや目次を速やかに更新しました。また、「遠赤外線とは?」、「FAQ」などの遠赤外線基本情報を提供するとともに、遠赤外線応用分野や「新規入会会員の紹介」などを通して、会員の皆様の事業展開に貢献できるよう、その充実に努めました。

会員専用ページには、総会、理事会、運営委員会などの議事録を迅速に掲載し、会員の皆様に「見える協会活動」を実践します。最新版と直近1年分の会報(2016-2、-3、2017-1)、各リーフレット、関連書籍情報、受託/自主事業報告書データベースを掲載するなど情報提供の場として活用していただけるよう充実に図りました。

9) 遠赤外線協会製品・技術振興表彰及び永年継続会員表彰の実施

会員より推薦いただいた受賞候補者を選考委員会で審査し、優秀製品・技術賞 1 件 (MIG3 セラミックスを含浸処理した遠赤外線敷パッドの開発と商品化：(株)アライヴン、Goen3 社 (ブラジル))、特別賞 1 件 (佐川 守一氏：専務理事・事務局長・技術部長として 10 年間、協会活動に尽力) を選考し、第 24 回定時総会の場で表彰しました。なお、20 年以上会員を継続いただいた永年継続会員表彰は該当会員がありませんでした。

4. 赤外線関連製品・技術に関する内外関係機関などとの交流及び協力 (定款第 4 条第 4 号関係)

1) 国内関係機関との交流及び協力

セラミックス関連団体 (JFCA、JFCC、CSJ) や赤外線加熱系団体 (JEHC) との会合、日本機械工業連合会 (JMF)、日本寝具寝装品協会 (JBA) への訪問を通じて、交流及び協力を推進しました。入手した情報は、関連委員会に報告し、適時メール等で会員の皆様に提供しました。また、技術シンポジウムや研修会などの協会活動や省庁・関連団体のイベントに積極的に参加し、産学官の人脈構築を推進しました。ホームページのビジネスマッチング相談は、内容を検討し該当会員へ情報提供を行いました。

2) 海外関係団体との交流

EU (現在、ドイツを中心) に eihap (欧州赤外線リエゾン) が 4 月に立ち上がりました。2015 年末に来日し協会を訪問したオバラドシュテッター氏 (リエゾンのメンバー) は意見交換の中で日本の先進の遠赤外線応用技術や製品を知り、8 月以降、eihap Web サイトの当協会の紹介 (目的や活動実績) と木村顧問が海外講演した英文資料の掲載依頼がありました。木村顧問や運営委員会や加熱・保温繊維小委員会合同で検討し、まず、緩やかな連携をスタートすることになり、eihap Web サイトへの 2 つの資料の掲載許諾を通知しました。

また、2013 年度に締結した香港遠赤外線協会 (HKFIRA) との認定制度の支援事業は、当協会の提供資料に対し未支払い状態が続いていましたが、昨年 6 月末に 2013 年 8 月締結の契約条件で「In-kind sponsorship」の再発行要求がありました。理事会、運営委員会と会員企業の法務部門と協議し、昨年 11 月初旬にその契約が成立するのは提供対価への支払が条件である旨の回答を香港遠赤外線協会 (HKFIRA) のチェアマン宛に協会会長レターを送りました。現在 (3/31) も先方の回答待ちの状態が続いています。

第 27 回遠赤外線技術シンポジウムでは昨年に引き続き、タイ マヒドン大学のサックダビパニッチ教授に講演を頂き、懇親会で意見交換を行ないました。

海外関係団体との交流で入手した情報は、入手情報は、関連委員会に報告し、会報、ホームページなどを通じて、会員の皆様に公開しました。

〔Ⅱ〕 庶務の概要

1. 定時総会

2016（平成 28）年 6 月 1 日（水）に第 24 回定時総会を開催し、下記議案を正会員 20 名中 19 名の出席を得、出席者全員の一致をもって原案通り可決しました。また、2016（平成 28）年 3 月 10 日（木）の第 85 回理事会で決議した平成 28 年度事業計画及び収支予算、新入会員の河田フェザー販売株式会社、テクノエレメント株式会社の紹介を行いました。

第 1 号議案 平成 27 年度事業報告書の承認に関する件

第 2 号議案 平成 27 年度決算報告書の承認に関する件

第 3 号議案 役員を選任に関する件

報告事項 1 平成 28 年度事業計画書に関する件

報告事項 2 平成 28 年度収支予算書に関する件

報告事項 3 顧問の委嘱に関する件

報告事項 4 平成 28 年度遠赤外線協会製品・技術振興表彰に関する件

その他の事項

2. 理事会

第 86 回理事会

開催日：2016（平成 28）年 6 月 1 日（水）

下記議案を理事総数 12 名中 8 名の出席を得、出席者全員の一致をもって原案通り可決しました。

第 1 号議案 平成 27 年度事業報告書の承認に関する件

第 2 号議案 平成 27 年度決算報告書の承認に関する件

第 3 号議案 役員を選任に関する件

第 4 号議案 顧問の委嘱に関する件

第 5 号議案 平成 28 年度遠赤外線協会製品・技術振興表彰に関する件

第 6 号議案 運営委員長及び副委員長の委嘱に関する件

第 7 号議案 会員入会の承認に関する件

報告事項 平成 28 年度事業計画書、収支予算書に関する件、加熱・保温繊維小委員会合同報告、実施事業などの活動報告

第 87 回理事会

開催日：2016（平成 28）年 6 月 1 日（水）

下記議案を理事総数 12 名中 8 名の出席を得、出席者全員の一致をもって原案通り可決しました。

第 1 号議案 会長、副会長、専務理事の選任に関する件

第 2 号議案 代表理事の選任に関する件

第 3 号議案 会長の補佐、職務代行の場合の順序に関する件

第 88 回理事会

開催日：2016（平成 28）年 7 月 11 日（水）

下記議案を理事総数 12 名中 9 名の出席を得、全員一致をもって原案通り可決しました。

- 第 1 号議案 今後の協会活性化（会員アンケート）活動に関する件
- 第 2 号議案 会員入会の承認に関する件
- 第 3 号議案 運営副委員長の委嘱に関する件
- 第 4 号議案 香港遠赤外線協会(HKFIRA)との交渉に関する件
- 報告事項 加熱・保温繊維小委員会合同報告、2016（平成 28）年度上半期事業報告、2016（平成 28）年度上半期収支実績と期末予測、第 27 回遠赤外線技術シンジウムの状況（速報）、その他の活動報告

第 89 回理事会

開催日：2017（平成 29）年 3 月 9 日（木）

下記議案を理事総数 12 名中 8 名の出席を得、全員一致をもって原案通り可決しました。

- 第 1 号議案 協会活性施策（会員アンケート）の具体化に関する件
- 第 2 号議案 2017（平成 29）年度事業計画書の承認に関する件
- 第 3 号議案 常勤事務局長（兼技術部長）の年俸に関する件
- 第 4 号議案 2017（平成 29）年度収支予算書の承認に関する件
- 報告事項 2016（平成 28）年度事業報告、収支期末予測報告、加熱・保温繊維小委員会合同報告、2017（平成 29）年度製品・技術振興表彰の応募状況、実施事業などの活動報告

4. 運営委員会

- 第 123 回運営委員会 開催日：2016（平成 28）年 5 月 12 日（木）
- 第 124 回運営委員会 開催日：2016（平成 28）年 7 月 14 日（木）
- 第 125 回運営委員会 開催日：2016（平成 28）年 10 月 20 日（木）
- 第 126 回運営委員会 開催日：2016（平成 28）年 12 月 08 日（木）
- 第 127 回運営委員会 開催日：2017（平成 29）年 2 月 09 日（木）

5. 小委員会

- 加熱小委員会・ 開催日：2016（平成 28）年 5 月 12 日（木）
- 保温繊維小委員会合同 開催日：2016（平成 28）年 7 月 14 日（木）
- 開催日：2016（平成 28）年 10 月 20 日（木）
- 開催日：2016（平成 28）年 12 月 08 日（木）
- 開催日：2017（平成 29）年 2 月 09 日（木）
- 広報小委員会 開催日：2016（平成 28）年 5 月 12 日（木）

[I] 事業の概要

1. 遠赤外線関連製品・技術に関する調査及び研究（定款第4条第1号関係）

- 1) 協会保有遠赤外線関連技術の系統化：保有技術 DB の会員周知、一部を一般公開への検討
- 2) 常温域放射機構及び遠赤外加熱利用に関する調査研究：

「遠赤外線による快適な暖かさ」＝「暖かさを科学する」を継続
寝具系や接触型の電気暖房器系の認定基準化に向けた検討

2. 遠赤外線関連製品・技術に関する情報の収集及び提供（定款第4条第2号関係）

- 1) 基盤的情報の収集及び提供：定時総会講演会（横浜国立大学 薩本 弥生教授）、
各種情報収集、遠赤外線市場製品調査、一般の方への基礎技術普及啓発
- 2) 世界省エネルギー等ビジネス推進協議会：国際展開技術集 2017 の作成と入手情報発信
- 3) 「会報」の編集発行：年3回を自前で編集、カラー版による最新情報や会員情報の提供
- 4) 遠赤外線に関する各種相談：一般の方や技術者からの相談（質問・苦情・紹介）の対応
- 5) 経済産業省関連情報などの会員への配信：概要を解説したタイムリーなメール情報配信
- 6) 遠赤外線関連施設見学会の実施：会員企業（東京ガス防災センター）の施設見学会実施

3. 遠赤外線関連製品・技術に関する普及及び啓発（定款第4条第3号関係）

- 1) 認定マーク・認定基準の普及促進と適用商品の拡大：認定審査委員会（加熱）や技術シンポジウム開催や小冊子、ホームページを利用した普及啓発・宣伝活動
- 2) 技術シンポジウム開催：経済産業省「後援」、関連団体協賛、新聞事前告知：参加76名
- 3) 遠赤外線技術／認定研修会：技術研修4月事務所10名、認定研修12月パナソニック40名
- 4) マスコミに対する協力及び小冊子の配布：メディア取材対応、2紙に会長年頭所感掲載
- 5) 展示会：エレクトロヒートシンポの協賛・出展に対応。3社出展し45社がブースを訪問
- 6) 協会文書のデジタルアーカイブ化：協会活動・講演資料データのアーカイブ化と蓄積
- 7) 会員拡大活動と協会会員マークの浸透：問合せ企業や外部イベントでの入会勧誘活動
- 8) 一般の方々への情報公開・ホームページの充実：一般の方々への遠赤外線基本情報、協会の
所定情報等の開示、掲載情報の更新と会員への情報提供充実化
- 9) 遠赤外線協会製品・技術振興表彰及び永年継続会員表彰の実施：優秀製品・技術賞1件及び
功労賞1件の表彰

4. 赤外線関連製品・技術に関する内外関係機関等との交流及び協力（定款第4条第4号関係）

- 1) 国内関係機関との交流及び協力：関連団体会合への参加、省庁・会員企業への会長訪問
- 2) 海外関係団体との交流：e-ihap ホームページで当協会紹介、タイ：マヒドン大学と交流